

第2章 事業活動

1. 資料収集・保管

吉村文学に関連する幅広い資料を所蔵する国内随一の文学館を目指し、吉村家より寄託された資料に加え、吉村氏とその作品に関連する資料を対象に、長期的な展望の下、引き続き収集を行います。収集に当たっては、有識者を含む収集委員会などを設置し、資料に対する調査、評価を踏まえた審議を行い、実施していきます。

また、収集した資料に合わせた保存と展示の環境を備え、適切に保存・管理します。

(1) 収集資料

以下の資料を対象に、継続的な収集活動を行います。

- ・ 吉村氏に関する資料
 - 書簡、写真、愛読書、愛用品、愛蔵品、その他関係する資料
- ・ 吉村文学に関する資料
 - 自筆原稿、取材記録、インタビューテープ、参考資料
 - 著作が掲載された雑誌、新聞、挿絵や装丁画の原画
 - 著書、資料、関連図書、著作にかかわる歴史資料
 - 吉村文学に関連する映像、小説、マンガ
 - その他関係する資料
- ・ 荒川区に関連する文芸
 - 荒川区を舞台とした文芸作品
 - 荒川区にゆかりのある作家による文芸作品
 - その他関係する資料
- ・ 館の活動上必要な上記以外の資料

(2) 保存環境

資料の特性に合わせた収蔵システムにより、安全かつ効率的に、資料を保存します。

- ・ 特別収蔵庫：恒温恒湿環境を維持し、自筆原稿や愛蔵品など、特に貴重で保存環境への配慮が必要な資料を保存する。
- ・ 一般収蔵庫：著書や関連図書などを保存する。
- ・ 保管庫：展示備品などを保管する。

2. 調査研究

吉村文学にかかわる情報を集積し、吉村文学の魅力や精神を探求するなど、文学館の基礎となる調査研究活動を展開します。活動の展開に当たっては、学芸員を中心とする調査研究活動に加え、新たに設置する研究支援組織などの協力を得て、より高度で実践的な活動を展開します。調査研究の成果は展示や研究報告書などを通じて広く一般に公開します。

(1) 学芸員を中心とする調査研究

学芸員を中心に、吉村文学に対する総合的な研究を行います。収蔵資料を生かした調査研究を基盤とし、吉村文学の魅力や精神をより深く理解するとともに、新たな資料収集に向けた調査も並行して行っていきます。

また、吉村文学や同時代文学に関する研究者など、館外から特別研究員を招聘するなど、幅広い視点からより深い研究が推進できる体制を構築します。

(2) データベースの構築とデジタルコンテンツの活用

広大な広がりを持った吉村文学の世界を展望するため、様々な情報を集積したデータベースを構築し、これを様々な人々が利用しやすいコンテンツとして提供します。

- ・調査研究の基盤となる「吉村昭データベース」の構築
- ・取材テープなどの音声・映像資料の整理、活用
- ・「吉村昭データベース」を基にしたコンテンツ編集 等

(3) 研究支援組織（研究会等）の設置

吉村文学や関連する分野の研究者、愛好家などにより、館の研究の拡大、深化を図る体制を備えます。

高い専門性を有した組織として、館活動の企画や講座にかかわる講師や講演者としての活動、研究紀要への寄稿、編集などにも参画します。具体的には、研究テーマごとに分科会を設置するなどして、より実践的な活動を展開します。

(4) 研究助成

吉村氏や吉村文学の研究、あるいは吉村氏の精神を継承する活動に対する助成事業の在り方を検討します。

(5) 他館などとの連携

荒川区周辺の文学館や博物館と連携し、共催イベントや散策ルートなどの構築を図ります。

また、関連する文学館をはじめ、作品のテーマになった歴史や事件に関連する博物館、地域、人などと連携し、文学館の枠を超えた共同研究などの活動を展開します。

3. 展示

吉村文学に関する資料収集や調査研究を基盤とし、基本理念に沿った充実した展示活動を展開します。吉村氏や吉村文学をテーマにした展示を行うとともに、日暮里を中心に点在する吉村氏ゆかりの地や作品に関連するスポットなども広く展示資料ととらえ、紹介していきます。

さらに、幅広い文学や芸術文化をテーマにした企画展を行います。

(1) 吉村文学に関する展示

吉村氏の業績の全体像を示し、吉村文学の精神を伝えるとともに、日暮里で過ごした少年時代の様子や家族、友人、編集者などから見た吉村氏の人柄などを通して、人物像を明らかにします。

また、多彩な分野にわたる著作について、その特徴や魅力を紹介するとともに、吉村文学のルーツと後世に残した影響について、より深く探求します。

さらに、特定の作品を取り上げ、その作品世界をインタラクティブ映像^{*1}やインスタレーション^{*2}などの斬新な手法を駆使しダイナミックに提示したり、特定のテーマにより新たな魅力を発掘するなど、吉村文学に関する多彩な企画展示を展開します。

※1 インタラクティブ映像：センサーなどを活用し、人の動きや音声などに対応して映像をコントロールする仕組み

※2 インスタレーション：現代美術の一つで、空間全体を作品として体験させる芸術

(2) 周辺地域を利用した吉村氏の紹介

荒川区内をはじめ周辺地域には、吉村氏や吉村文学にゆかりのある場所が多く残っています。文学館の展示に加えて、こうした場所も展示資料ととらえ、見学するための仕組みを整備します。

(3) 幅広い文学や芸術文化に関する展示

内外の文学者、近現代の歴史、荒川区にゆかりの芸術文化、区民の創作活動、芸術家など、より幅広い文学や芸術文化をテーマにした企画展や、他の文学館・博物館や文学団体、マスコミなどが制作した巡回展の活用、共同制作など多彩な展示活動を展開します。

[空間構成]

展示部門は、吉村文学の展示に加え幅広いテーマの展示を行うために、柔軟に利用できることが求められます。そのため、以下の三つのゾーンによって構成し、目的に合わせて組み合わせることができる仕組みとします。

A. 常設展示ゾーン

| | |
|----------|--|
| 基本的な位置付け | 常設展示室として、吉村氏のプロフィール、荒川区とのかかわり、その作品世界や作家としての業績などの情報を示します。 |
| 展示手法 | 大型グラフィックや模型などの固定展示を主体に、更新可能な資料や小型グラフィックなどの展示を組み合わせます。 |

B. 準常設展示ゾーン

| | |
|----------|---|
| 基本的な位置付け | 通常時は常設展示室として、吉村文学の多様なテーマや系譜に関する展示を行います。大規模企画展の開催時には、企画展示室として利用します。 |
| 展示手法 | 可動式展示システムを前提とし、固定的な展示を最低限にとどめます。文学作品だけでなく絵画、工芸、映像、インスタレーションなどの展示が可能なシステムとします。 |

C. 企画展示ゾーン

| | |
|----------|--|
| 基本的な位置付け | 企画展示の空間として、吉村氏や荒川区ゆかりの文化人などをテーマにした企画展示を行います。 |
| 展示手法 | ダイナミックな展示構成が可能な、より可動性の高い展示システムとし、文学作品だけでなく絵画、工芸、映像、インスタレーションなどの展示が可能なシステムとします。 |

【展示室利用イメージ】

①通常時

| 【A. 常設展示ゾーン】 | 【B. 準常設展示ゾーン】 | 【C. 企画展示ゾーン】 |
|--|--|---|
| <p>常設展示</p> <p>吉村氏と吉村文学に関する基礎的な内容について、固定的な展示</p> | <p>準常設展示</p> <p>常設展示と連携した吉村文学に関する展示、可動性を重視した展示</p> | <p>企画展示</p> <p>館蔵資料展、区民の創作展など比較的小規模な期間を区切って行う展示</p> |

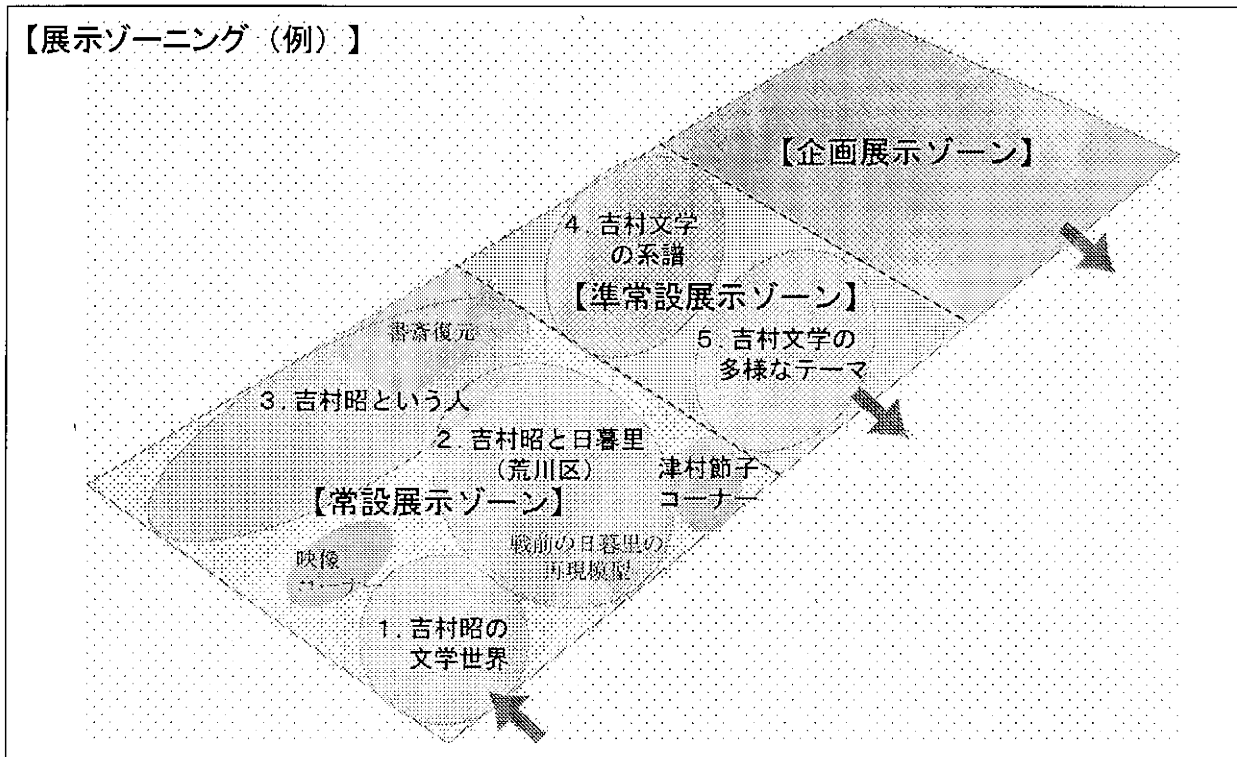
②企画展開催時

| 【A. 常設展示ゾーン】 | 【B. 準常設展示ゾーン】 | 【C. 企画展示ゾーン】 |
|--|---|--------------|
| <p>常設展示</p> <p>吉村氏と吉村文学に関する基礎的な内容について、固定的な展示</p> | <p>企画展示</p> <p>幅広い芸術文化をテーマにした大規模企画展</p> | |

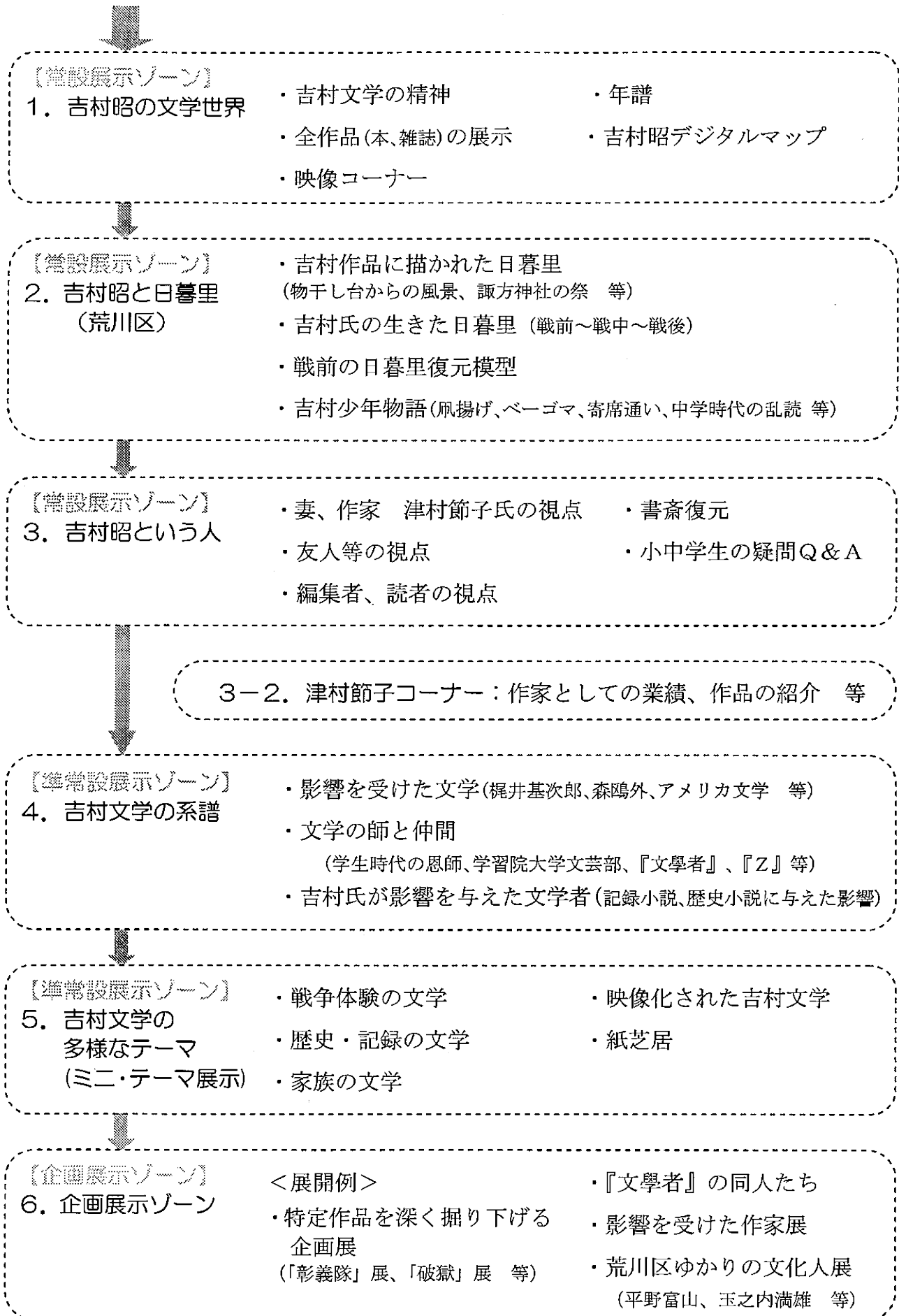
③吉村文学をテーマにした大規模企画展

| 【A. 常設展示ゾーン】 | 【B. 準常設展示ゾーン】 | 【C. 企画展示ゾーン】 |
|--|--|--------------|
| <p>常設展示</p> <p>吉村氏と吉村文学に関する基礎的な内容について、固定的な展示</p> | <p>吉村昭関連企画展示</p> <p>特定の吉村作品をテーマにした大規模企画展など</p> | |

【展示ゾーニング（例）】



[展示構成 (例)]



[展示室イメージ]

コーナー「2. 吉村昭と日暮里」

【吉村作品に描かれた日暮里】

四月十三日の夜、町に大量の焼夷弾がばらまかれた。米軍側資料によると、米襲撃したのは、三百三十機である。裏の家から炎が噴き出し、私は避難する人とともにすぐ近くの谷中墓場に身を避けた。朱色に染った空を超低空のB29が頭上を過ぎた。軽金属の機体は、炎の色を反映して玉虫色に彩られ、巨大な魚のようにみえた。

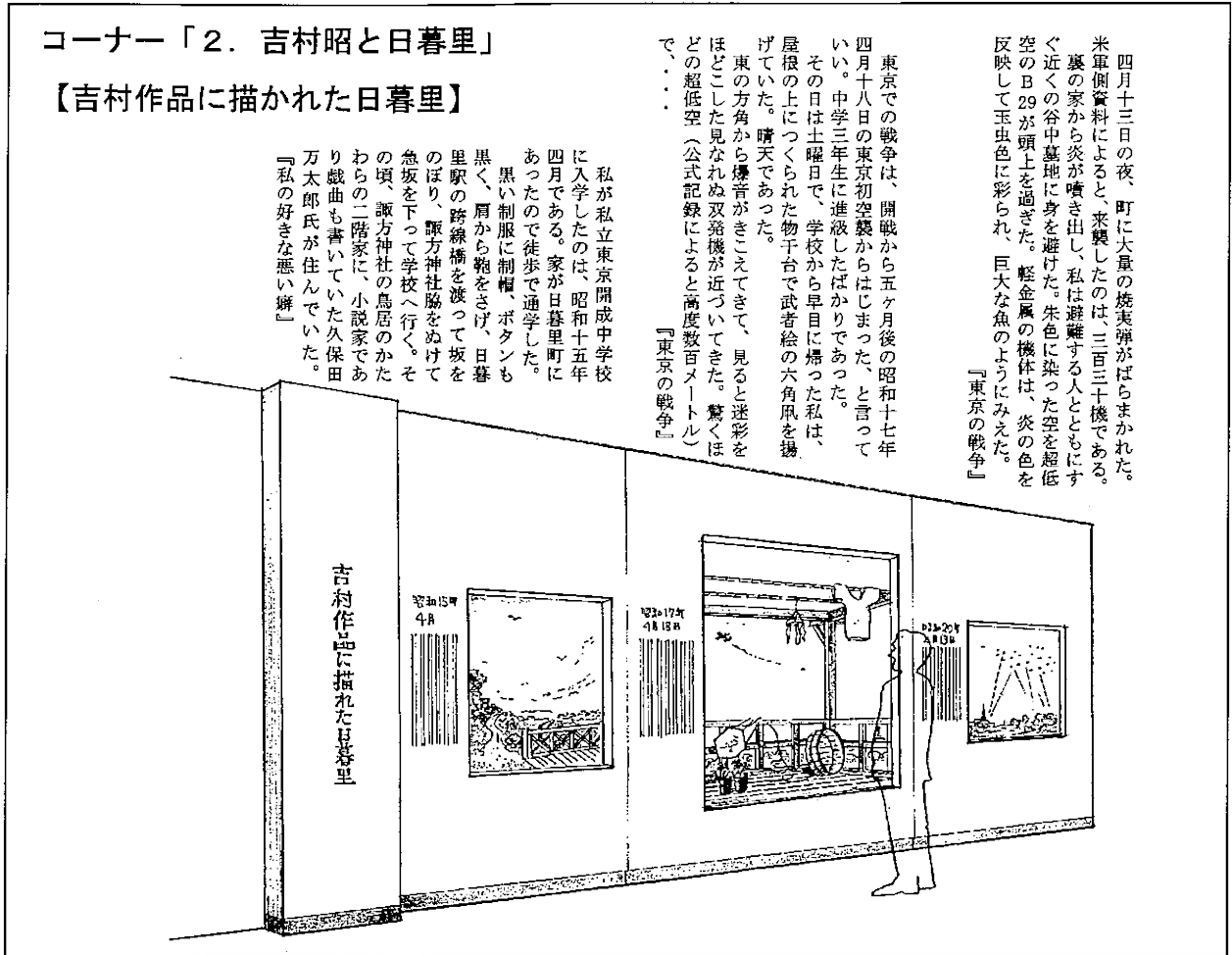
『東京の戦争』

東京での戦争は、開戦から五ヶ月後の昭和十七年四月十八日の東京初空襲からはじまった。と言っている。中学三年生に進級したばかりであった。その日は土曜日で、学校から早目に帰った私は、屋根の上につくられた物干台で武者絵の六角凧を揚げていた。晴天であった。東の方角から爆音がきこえてきて、見ると迷彩をほどこした見なれぬ双発機が近づいてきた。驚くほどの超低空（公式記録によると高度数百メートル）で、...

『東京の戦争』

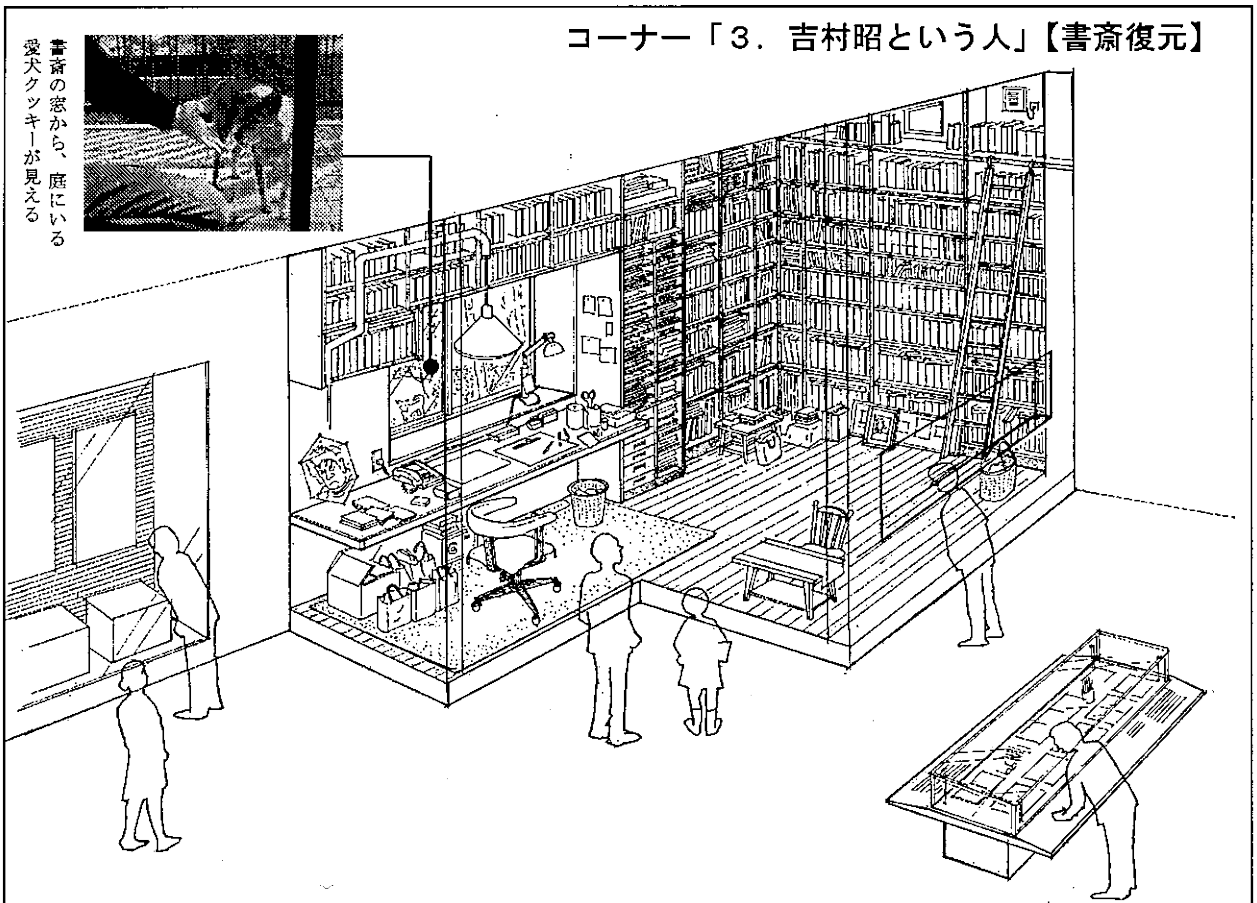
私が私立東京開成中学校に入学したのは、昭和十五年四月である。家が日暮里町にあつたので徒歩で通学した。黒い制服に制帽、ボタンも黒く、肩から鞆をさげ、日暮里駅の跨線橋を渡って坂をのぼり、諏方神社脇をぬけて急坂を下って学校へ行く。その頃、諏方神社の鳥居のかたわらの二階家に、小説家であり戯曲も書いていた久保田万太郎氏が住んでいた。

『私の好きな悪い癖』



コーナー「3. 吉村昭という人」【書齋復元】

書齋の窓から、庭にいる愛犬クッキーが見える



[周辺地域の整備例]

<整備対象スポット>

- ・ 吉村氏にゆかりのある場所
生家、青年期を過ごした家、学校、随筆などに描かれた思い出の場所 等
- ・ 作品に描かれた場所
荒川区や近隣の地域を舞台とした作品「彰義隊」、「孤独な噴水」などに描かれた場所

<整備方法>

| | |
|------------|--|
| 吉村昭データベース | 整備対象スポットに関する詳細な情報を収集し、データベースを作成する。館内での情報提供に加え、Web上で公開する。 |
| 解説サイン | 整備対象スポットに解説サインを設置する。QRコードなどのメディアを活用し、詳細な情報を提供する方法を検討する。 |
| 吉村昭マップ | 整備対象スポットをプロットした地図を制作し、館内で展示するほか、来訪者に配布し、周辺散策を促進する。 |
| コースづくり | 「文学散歩」や「ゆかりの地巡り」など、テーマに沿って各スポットを巡るためのコースを整備する。 |
| ガイドシステムの構築 | 各スポットに関する知識を有した解説員を養成し、テーマに沿って地域を巡るウォーキングツアーの開催を図る。 |

4. 教育・普及

人々と文学館とをつなぐ架け橋となることを目指し、吉村文学をはじめ広く文学に対する理解と関心を深めるため、また、幅広い芸術文化に触れるため、講座や講演会をはじめとする各種活動を展開します。一般向けの活動に加え、小中学生を対象とし、吉村文学に親しむきっかけとなる活動を重視して展開します。

(1) 講演

吉村氏や吉村文学、文学をはじめとする幅広い芸術文化をテーマに、講演やシンポジウムなどを開催します。

また、企画展の開催に併せて、関連するテーマの講演会を開催します。

(2) 講座

吉村氏や吉村文学、文学をはじめとする幅広い芸術文化をテーマにした講座を開催します。

- ・一般向けの講座
- ・小学生向け、中学生向けなど、特定の年齢層に合わせた講座
- ・専門性の高い内容など、受講者の目的に合わせた講座 等

(3) イベント

吉村氏や吉村文学、文学をはじめとする幅広い芸術文化をテーマに、多彩なイベントを開催します。

- ・吉村文学の朗読会
- ・演劇化した吉村作品などの上演
- ・吉村文学に関連する映像作品の上映会
- ・俳句・短歌大会
- ・吉村氏の足跡を巡るあらかわ散歩、あらかわ文学散歩
- ・吉村氏の誕生日や命日にちなんだイベント
- ・子供を対象とした体験プログラム(作品にちなんだ工作、紙芝居づくり等) 等

5. 情報提供

資料収集や調査研究などの事業活動の成果を活用し、吉村文学にかかわる情報拠点として、区民をはじめ国内外の研究者から一般の人々まで、幅広い利用者に吉村文学にかかわる情報を提供します。

活動の展開に当たっては、新しい媒体や情報技術を生かし、より多くの人々に利用されるシステムを目指します。

(1) 閲覧

吉村文学や関連する分野の資料を閲覧・視聴できるライブラリーを設置します。

- ・ 著作（書籍、原稿の複製、雑誌、大活字本、点字版、朗読CD等）
- ・ 映像化された作品（ビデオ等）
- ・ 吉村文学に関する評論、研究書
- ・ 主要著作のテーマにかかわる書籍
- ・ 著作に関する書誌情報
- ・ 荒川区ゆかりのその他芸術文化に関する書籍・資料
- ・ データベース、デジタルコンテンツ 等

(2) 館発行物

本文学館の活動や研究成果を伝えるため、以下の刊行物を発行します。

- ・ パンフレット、企画展チラシ
- ・ 展示図録、収蔵資料目録
- ・ 特定のテーマに関する解説シート、ワークシート
- ・ 研究紀要
- ・ 叢書（吉村氏の著作の復刊、文庫化、マンガ、絵本等）
- ・ 周辺地域を含めたガイドブック 等

(3) Webサイト

本文学館の活動や研究成果をリアルタイムに発信するため、Webサイトを設置します。

- ・ 企画展や教育普及活動など館の催しなどにかかわる最新情報
- ・ 吉村文学の魅力を伝える解説

- ・データベースと連携し、研究にも活用できるレベルを有した、豊富な情報
- ・会員制SNS^{*}や掲示板などによる、ファンや研究者の情報交流の場
- ・散策ルートマップ、周辺地域の見どころ紹介 等

※SNS：ソーシャル・ネットワーキング・サービスの略で、インターネット上の社会的ネットワークを提供するサービス

6. 広報・利用者サービス

より多くの人々が訪れ、継続的に利用される文学館を目指し、積極的な広報活動を展開するとともに、利用者の目的に合わせて多彩な活動が展開できるよう、機能の拡充を図ります。

また、利用者が館内の見学や周辺地域の回遊を行うために必要なサービスを提供します。

(1) 広報

本文学館の存在と活動を広く紹介し、より多くの利用を促進するため、印刷物やインターネット、区の広報、新聞、雑誌の各種メディアを活用したPRを積極的に行います。

(2) 交流空間

区民をはじめとする人々が吉村文学への興味を持ち、親しみを持って利用してもらえるような空間を整備します。

- ・ライブラリーの公開
- ・会議室、セミナー室などの活用
- ・エントランスホールなどにおける吉村氏に関する紹介映像 等

(3) ミュージアムショップ

著作や関連図書、図録などに加え、来館の思い出となるオリジナルグッズを開発し販売します。

- ・研究書、関連図書、図録や紀要などの館発行書籍
- ・『吉村昭と戦史の証言者たち』（ビクターレコード全5巻対談集）の復刻版
- ・地場産品を生かしたオリジナルグッズ（繊維、皮革、プラモデル、鉛筆等）
- ・荒川区の伝統工芸品（木版画、すだれ等） 等

7. 活動参画

区民や区内の事業者、全国の吉村文学ファンなど幅広い人々と連携していきます。そのために、これらの方々が文学館の活動に参画できる仕組みを整備します。

(1) 友の会

吉村昭ファンをはじめ、館の活動に興味・関心を持つ人々を広く全国から募り、会員制による「友の会」として組織化します。各種特典、サービスの提供、友の会の自主イベントなどを通じて、継続的利用や会員間の交流の促進を図ります。

(2) ボランティア組織

館の運営や館内ガイドなどを養成するために、地域住民やファン、友の会会員などの参画を図り、ボランティア組織を設置します。

(3) 運営協議会

文学館の運営に関して、館を補佐し、館の諮問に応じるため、文学館の運営や文学研究などに関する有識者、学識経験者などで構成する運営協議会を設置します。

(4) 協力会

地元事業者や吉村氏の著作に関連する企業などを会員とする支援組織を呼びかけ、文学館の活動に対して様々な協力を得られる仕組みを検討します。

- ・企画展への協力（資料提供、資金提供）
- ・広報、PRに関する協賛（館発行物への広告掲載と費用負担、地元商店街などでのPR）